

「ホームページ一般向け情報公開文書」

秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学講座並びに附属病院泌尿器科では、ヒト腎臓癌（腎細胞癌）の手術標本・生検標本に関して、病理診断を確定した残りの病理標本を利用して、秋田大学の研究倫理審査を経た以下の研究を行っています。

「転座腎細胞癌の実態把握と解析－多施設共同研究」

転座腎細胞癌は WHO 分類で新たに定義された腎臓癌です。遺伝子の発現を調節する TFE3 又は TFEB という分子の異常が腎臓の細胞に起こることで、この転座腎細胞癌が起こります。転座腎細胞癌は成人腎細胞癌例のおよそ 1~5%とされており、きわめて発生頻度の低い腎臓癌です。転座腎細胞癌は頻度が低いうえに、確定診断に特殊な組織診断方法 (FISH 又は免疫染色)が必要とされます。そのために転座腎細胞癌の詳しい性質はまだ完全には把握されていません。一般には若年者に多く悪性度が高い傾向があると言われていますが、進行した転座腎細胞癌に対して最も有効な治療方法がどのようなものかというコンセンサスも、まだ確立されていません。このように症例数が少なく、病理組織診断がその診断に重要なウェイトを占める転座腎細胞癌の全容を明らかにするために、秋田大学では全国の大学や病院と協力して多施設共同研究を行っています。

具体的な研究内容は、臨床経過や病理組織診断から転座腎細胞癌が疑わしい症例および転座腎細胞癌と診断された症例の病理組織標本を、腎臓癌の診断を専門とする病理医が再評価します。病理組織診断で転座腎細胞癌と診断された病理組織標本を、さらに詳細に検査（免疫組織染色、FISH）し、併せて様々な臨床情報（年齢、性別、ステージ、悪性度、血液検査データ、画像検査所見、臨床経過、治療方法、予後等）を解析し、我が国における転座腎細胞癌の実態を解明します。本研究を行うことにより、転座腎細胞癌のより良い診断方法や治療方法の確立に役立てます。

病理組織標本及び臨床情報は全て匿名化した後に解析を行い、個人情報が開示されることは一切ありません。

本研究は国から交付された研究費（科学研究費）の協力を得て行われる予定ですが、費用の出資者とは無関係に公正に行われます。本研究の利害関係の公正性については、秋田大学大学院医学系研究科研究審査委員会の承認を得ております。今後も、当該研究経過を秋田大学医学部研究科長へ報告すること等により、利害関係の公正性を保ちます。

この研究内容についてさらに詳しく知りたい等、ご質問・ご希望がございましたら、秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学講座・沼倉一幸まで、ご連絡ください(電話：018-884-6156、 e-mail address: numakura@doc.med.akita-u.jp.ac)